

学会全国大会 山形大会 ミニレポート

令和7年6月28日（土）～29日（日）

豊平小 加藤

学会全国大会山形大会に、学会北海道支部の支部長（地域世話人）として参加してきました。（大会参加者：約700名）

【北海道からの参加者】

- ◇札幌地区…大室先生、齋藤先生、熊谷先生、加藤
- ◇旭川地区…玉井先生、小原先生、河田先生、菊池先生、竹内先生、入江先生

日本生活科・総合的学習教育学会
第34回 全国大会 山形大会

大 会 紀 要



「自律し、夢中になる学習者」を育てる
～「学ぶ・暮らす・遊ぶ・働く」の視点から～



令和7年 6月28日（土）・6月29日（日）
主催 日本生活科・総合的学習教育学会

大会テーマ 「自律し、夢中になる学習者」を育てる ～「学ぶ・暮らす・遊ぶ・働く」の視点から～

1日目午前：公開授業 山形大学附属小学校 5年3組タイム学習活動 『Discover 山形～外国から来た人たちと共に探る 山形の魅力と課題～』（授業者 佐藤大将）

《単元および本時の概要》

本単元は、「山形県は人気がない」「台湾観光客は来るけど、他国は少ない」「冬はオーバーツーリズム気味だが、春・夏・秋は1/10程度」という事実を知った子どもたちが、山形の魅力PRを探究する学習です。

公開授業は、「世界の人たちに山寺の魅力をPRし、実際に来て味わってもらう」という目的に向けて、①HPやSNSによる発信、②リーフレット・チラシ・ポスターの作成、③旅行プランの作成、の活動別グループ（11チーム）がタブレット端末を使って調べたり制作したり、話し合ったりする時間でした。

山寺のパンフレットを試作したチームは、旅行会社の方からオンラインでアドバイスを受けていました。「人によって知りたい情報が異なる」「山形に来ている人に訊いてみては？」というアドバイスをいただき、教室内の参観者に山形への印象や地元との違いなどについてインタビューを始めました。



【写真】山寺（立石寺）
大会前日、1015段の階段を登りました。（撮影：加藤）

《研究協議会（いわゆる授業分科会）の話題より》

冒頭、授業者が「活動の中心が“PRするだけいいのか”という葛藤がある」「共通のプロジェクトになっていないことが悩み」と、本音を吐露しました。「資質・能力の育成や評価規準の設定よりも、夢中・本気になれる学習を子どもと一緒に創ろう」という大会授業づくりの理念（？）があり、授業者はチームによる探究とクラスとしての探究のバランスに苦慮していたようです。

参観者からは、子どもたちの探究心やコミュニケーション能力、情報端末の活用能力について、高い評価の声がありました。一方で、「はじめに発信ありき、はどうか？山形のことをもっと知ることが大事では？」「山寺見学で体験した魅力の共有が足りない。ネット検索の書き写しが多い。」「PRの効果がないことを学ぶことも必要。」という厳しい指摘や意見もありました。



【写真】だしそば
山寺のふもとのそば屋「対面石」で食べました。刻んだキュウリ、ナス、オクラ、ミョウガがトッピングされた冷やしそばです。（授業では、このお店のパンフレットを試作したチームがありました。）

《大会授業のスタイルについて》

授業の開始・終了の挨拶がなく、板書もありません。教師が全体に対して発言したのは、授業開始37分後、「そろそろ振り返りをしてください」の指示だけでした。（他の授業も同じ授業スタイルのようです。）

会場校は授業の様子だけでなく、板書も掲示物も含めて、一切撮影禁止でした。残念。

1日目午後：シンポジウム 山形市中央公民館

テーマも登壇者も入れ替わる二部制のシンポジウムでした。

登壇者は大学の先生方が中心ですが、山形市内の高校生（計4名）が加わり、探究学習と自分の学びについて語る場面がありました。

探究学習における社会問題のジレンマが論題になった時、高校生が、「論破でなく、交渉が大切だと思います！」と発言し、会場内から拍手が湧き起こりました。

国際プレゼン大会で優勝した高校生が登壇しました。【右：NHK ネットニュースより】



山形東高校の探究科 国際的なプレゼン大会での優勝を報告

07月01日 18時22分



【写真】デザートコーナーのさくらんぼ
乾杯の1分後には、さくらんぼだけが見事に
無くなっていました。残念！

1日目夜：懇親会 山形グランドホテル

懇親会は立食形式です。（参加者：約350名）

山形大学の学生サークルによる花笠音頭のステージが大変盛り上がりました。



2日目午前：課題別研究発表 山形大学

8つの分科会がありましたが、主任視学官の田村 学先生がコメンテーターを務める分科会『山形発 次期学習指導要領先取り実践（開催地枠）』の参加者が大変多かったです。

田村先生から、文部科学省作成のサポートマガジン『みるみる』の紹介があり、個別最適な学びと協働的な学びのそれにおける教師に指導性の発揮について解説がありました。



2日目午前：自由研究発表 山形大学

今回は、旭川地区から発表が3本ありました。（発表者4名）

これまでの実践研究を踏まえた考察と改善の方策を全国に発信する姿に感動しました。



『生活科授業の質を高める
伴走支援の役割と効果』
◆菊池 勇希（附属旭川小）
◆入江 祐輝（旭川市立高台小）

『生活科における指導と評価の一体化の在り方（試案）』
◆小原 広士（旭川市立高台小）

『旭川市の未来を担う子ども育成』
◆河田 弘康（旭川市立大有小）

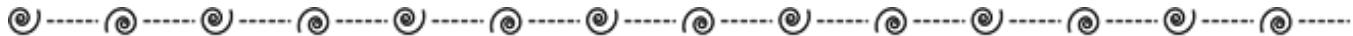
ありがとうございました！お疲れ様でした！

【速報】R8 福島大会の1次案内を公表

山形大会において、令和8年度の全国大会福島大会の「1次案内」が公表されました。（4ページ参照）
なんと、3日間日程の開催です。公開授業＆研究協議が、金曜日午後と土曜日午前に行われます。
また、令和9年度の佐賀大会の日程も発表されました。（令和9年6月19日（土）～20日（日））

【特別寄稿】

山形大会に参加した前委員長の熊谷雅史先生（北翔大学教授）から、感想レポートをいただきました。



山形市立第四（だいし）小学校

【公開授業について】時間を分けて生活・総合の授業が公開されました。

◆2年1組 『そだてて たべよう ～ぼく わたしのしょくぶつ～』（授業者 今 幸恵 先生）

興味をもった野菜を育て、それらを調理して食べる学習です。子どもたちは、それぞれの活動をそれぞれの場所で自由に取り組んでいました。授業はいつ始まったのか、いつ終わったのかもわかりません。担任の先生もどこにいらっしゃるのか分かりませんでした。教材園でお世話、植木鉢の野菜を観察、教室で顕微鏡づくりやタブレット端末で記録、YouTube 視聴など、一人一人の思いや願いを実現させようと活動していました。個に応じてデジタルとアナログを選択できたり、個別の活動を共有できるように、1つの教室を使って模造紙を長くつなげ、年表のように記録したりする工夫も見られました。70時間扱いの単元ということで、年間指導計画も子どもの興味・関心に応じて弾力的に扱えるようになっていました。



◆6年1組 『未来につなごう 花笠のバトン』（授業者 逸見 裕輔 先生）

山形県の人口減少により「花笠」がピンチであることを知り、子どもたちが何とかしようと立ち向かう単元でした。「花笠」という材はとっても魅力的で、子どもたちが本気になって取り組もうとする姿が見られました。笠の作り手も今では5人しかいないそうです。材料の「スゲ」の栽培も激減しているそうです。地域の作り手さんの協力を得て花笠を作るチーム、泥にまみれて土壤を改良しスゲを栽培しているチーム、「四面楚歌」という山形大学花笠踊りチームの協力により、踊りを習うチーム、花笠がピンチであることを発信する HP 作成チームなど、グループごとに取り組んでいました。どのチームも真剣に取り組んでいました。予定していた活動時間を終え、子どもたちが教室に戻って振り返りカードに記録をする場面はありましたが、全体で交流したり、次時の活動の確認をしたりする場はありませんでした。



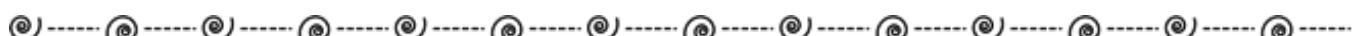
【研究協議】

当初体育館で行う予定でしたが、暑さが大変厳しかったため、急遽冷房のある教室数カ所に分かれ、オンラインで各教室をつなぐ形で協議が行われました。生活と総合をまとめて協議することや、オンラインであったため、授業者の説明と数名の質問が中心となり、協議の深まりという点では今一歩でした。

予想通り、「評価規準はどうなっていたのか」「教師の出番はどのように考えていたのか」という質問がありましたが、十分な回答は得られませんでした。コメントーターからは、子ども主体であり、子どもが学びのコントローラーを握っている素晴らしい実践であったという評価でした。評価規準を気にし過ぎる必要はなく、子どものやりたいことを存分にやらせ、その上で日頃から子どもの様子を見取ることで十分である??の見解が示されました。

私の感想としては、「山形の実践は、覚悟をもって子ども（学習者）を中心に振り切っている」と思いました。

山形の印象は、まちも人も素朴で、ゆっくり時間が流れる穏やかな雰囲気でした。そして、お酒（日本酒・ワイン）はどれを飲んでも美味しかったです。この大会を通して全国各地の先生と語り合い、つながることができました。たまたま道で出会い、課題別分科会でも一緒になった神奈川の先生から、先日お礼のメールをいただきました。このつながりを深めたり、広げたりしていきたいと思っています。



日本生活科・総合的学習教育学会

第35回全国大会（福島大会）1次案内
日本生活科・総合的学習教育学会会長 中野 真志
第35回全国大会福島大会会長 古関 明善
同実行委員長 渡邊かほる

テーマ

福島から子ども観、教師の在り方を問い合わせ直す

サブテーマ ～カリキュラム・マネジメントの中核としての生活科・総合からの変革～

大会期日

令和8年6月26日(金)～28日(日)

会場日程

背景:双葉郡富岡町 夜ノ森桜並木

【大会参加費 予定】

(一般) 4500円 (学生) 2500円



福島支部WebSite

11:30 11:45 ～ 14:00 14:15 ～ 15:45 15:55 ～ 16:45 17:10 ～ 18:40

受付	双葉郡スタディツアーセンター	取組紹介 公開授業	授業研究	移動
会場 福島県立ふたば未来学園高校・中学校 大熊町立学び舎ゆめの森 ※福島駅発着の大型バスに乗車してのツアーとなります				福島市内へ

18:30～

受付	公開授業	授業研究	移動	理事会 昼食	自由研究 発表	課題別 研究	総会	移動	受付	懇親会
協議会										会場 エルティ

会場 福島市立ふくしま中央認定こども園
福島市立福島第三小学校
福島大学附属小学校
福島市立松陵義務教育学校
福島市内県立高等学校

会場 福島大学



福島支部Facebook

8:40 9:30 9:45 10:00 11:10 13:10 ～ 14:50 15:00 ～ 16:40 16:50 ～ 17:30

地域世話人会	受付	全体会				
		開会行事	シンポジウム	閉会行事		

会場 桜の聖母短期大学 マリアンホール



福島支部Instagram

主催 日本生活科・総合的学習教育学会

後援 福島県教育委員会

後援（予定）福島市教育委員会・双葉郡内教育委員会・

福島市 ほか

問い合わせ先：事務局長

福島大学 宗形 潤子

fiis-admin-gr@fcs.ed.jp